

読書メモ2018年2月号

水野敬也+長沼直樹『人生はワンチャンス!』

(文響社・2012年)

やなぎさわかつひろ

柳沢克央 編

(信州・上田仮説サークル)

2018年2月17日(土), 2月例会用レポート

◇はじめに

前回までの「読書メモ」と同様、サークルで発表することを目的とすると、読書がはかどるので、今回もこのメモを作成しました。自身のため、記録を残すことが第一目的です。みなさま、よろしく(適当に)おつきあい下さい。今までのものと同様に説明あり、引用あり、要約あり、感想ありで諸々が混交しておりますのでご注意を。(私物)と書き添えてあるもの以外はすべて篠ノ井高校図書室蔵書。

今月は年末年始休業用に借りた本のうち、未読のものを消化することを重点目標としました。まだまだ、ストックがあり、これからもしばらく本選びで悩む必要はないものと思われれます。幸せなことです。1月20日(土)前後に、とてもめまぐるしいほどの研究の進展があったように感じました。情報処理の方法が変わったという実感がありました。錯覚であっても、成果が上がり、人に迷惑をかけなければ良いのではないかな…などと感じているこの頃の私です。私の中を情報がさらにスムーズに流れるように、無理せず、しかし、貪欲に「消化吸収」と「結晶化」とを進めていくつもりです。

2月7日(水)、尊敬する板倉聖宣先生の訃報に接しました。覚悟をしていたとはいえ、残念です。板倉先生からの生命力(=ヴィルトゥ), 学んだことを受け継いで、正当(正統)な形で熟成させて、後世に伝える所存です。

上田仮説サークルの皆さま、これからも、どうぞよろしくお願ひいたします。

◇前回、1月号で読んだ本

- ◎塩野七生編著『マキアヴェッリ語録』（新潮社・2003年・単行本）（私物）
- ◎隈元信一著『永六輔』（平凡社新書・2017年）
- ◎出口治明著『本物の思考力』（小学館新書・2017年）
- ◎山本紳一著『やればできるもんやなあー京大医学部に入ろうー』（ミヤオビパブリッシング・2017年）
- ◎ローレンス・A・カニンガム著／長尾慎太郎監修『バフェットからの手紙（第4版）』（Pan Rolling 株式会社・2016年）（私物）
- ◎新津^{あらお}新生著『蚕糸王国長野県—日本の近代化を支えた養蚕・蚕種・製糸—』（川辺書林・2017年）（私物）
- ◎佐藤優著『知の操縦法』（2016年・平凡社）
- ◎ビートたけし著『バカ論』（新潮新書・2017年）（私物）
- ◎アレックス・ラインハート著・西原史暁訳『ダメな統計学—悲惨なほど完全なる手引き書—』（勁草書房・2017年）（私物）
- ◎和田哲哉著『「頭」が良くなる文房具』（双葉社・2017年）（私物）
- ◎石黒マリーローズ著『聖書でわかる英語表現』（岩波新書・2004年）
- ◎小木曾健著『11歳からの正しく怖がるインターネット』（晶文社・2017年）
- ◎檜田秀樹著『リニア新幹線が不可能な7つの理由』（岩波ブックレット・2017年）

◇読書記録または読書メモ（順不同）（下線は柳沢による）

- ◎水野敬也+長沼直樹『人生はワンチャンス！』（文響社・2012年）

含蓄のある名言集。ただ、それだけだと重くなりすぎるので、犬の写真を入れて、とても気楽に楽しく読める構成にしている。タイトル自体が、本書の内容を象徴している。すばらしい。これらの名言を一度ずつ、頭を通過させることにより、将来に役立てたい。必要になったらまた借りて読むつもり。深くて、とてもすばらしい。あの米国大統領・トランプ氏の言葉が入っていたりするところが、また笑える。「時代だな」という印象。名言は次のとおり。

○犬の一生は短い。欠点はそれだけである。

- 基本を制する者が世界を制する
- 自分らしさをなくさない
- 時々、都会とサヨナラしよう
- 手のひらサイズの幸せ
- 嫌われるくらいがいい
- 世界記録より、自己ベスト
- 違う世界をのぞきにいこう
- すべては丸く収まる
- ひとつ余分にならば
- 耳に痛い意見にヒントがある
- 待つのも仕事
- 身だしなみはひとなみ以上に
- 目先の利益を見ない
- 好敵手（ライバル）を知る者が勝つ
- 自分のサイズを知ろう
- つかんだら手放すな
- 滅私
- 小さなことこそ全力で
- 嗅げば、わかる
- 休むのも仕事のうち
- 責任はとろう
- ひとりで抱えこまない
- ワン・フォー・オール，オール・フォー・ワン！
- 変わり者か。変える者か。
- 人生は欲ばった方がおもしろい
- さらけ出すと、愛される
- 枠からはみだせ
- 昼がんばると夜たのしい
- したいときがするとき
- 「努力」より「夢中」

- 疑おう
- 自分の主人は自分
- たまにはボーッとしよう
- 毎日にちょっとした変化を
- 睡眠時間をけずらない勇気
- ひとりきりの時間を持つ
- 次のボールを探しに行こう
- 攻めの昼寝
- 空を、見よう
- 今日、チャレンジしましたか？
- 最初に動こう
- 怖いのは、はじめだけ
- 勝負はスタートする前に決まっている
- 一本の電話が一生を変える
- 選べるのは一つだけ
- 一芸を身につけよう
- 見つけてもらうのを待たない
- 笑顔は不眠不休で
- まずは真似から
- いつのまにか色眼鏡で見てませんか？
- 誰だって、ほめられたい
- 嫌いな人は、ちょっと自分に似ている
- 愛嬌で乗り切ろう
- 咬まない方が強い
- 長いものには巻かれてみる
- 近すぎる幸せは見えにくい
- はなれている時間が絆を深める
- 可愛い“しわ”もある
- 独り占めは、ひとりぼっち
- 楽しそうにしていると、本当に楽しくなる

- 人生，山あり谷あり
- 結末がわからないから，面白い
- 子どものころに，なりたかったものは？
- 思い出し笑いする人生を
- ひとりじゃ，つukれないもの

◇次回以降の予告

- ◎島地勝彦著『神々にえこひいきされた男たち』（講談社＋α文庫・2017年）（私物）
- ◎左巻健男他著『理科の実験安全マニュアル』（東京書籍・2003年）
- ◎森田敦史著『なにもしていないのに調子がいい』（クロスメディア・パブリッシング・2016年）（私物）
- ◎板倉聖宣著『増補版・模倣と創造』（仮説社・1987年）（私物）
- ◎^{たくきよしみつ}鐸木能光著『シンプルに使うパソコン術』（講談社ブルーバックス・2007年）（私物）
- ◎八代目桂文楽著『芸談あばからべっそん』（ちくま文庫・1992年）（私物）
- ◎星新一著『気まぐれ指数』（新潮文庫・1973年）（私物）
- ◎^{かつべみたけ}勝部真長著『上に立つ者の論理』（PHP文庫・1994年）（私物）
- ◎マックス・ウェーバー著・中山元訳『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』（日経BPクラシックス・2010年）（私物）
- ◎牧野雅彦著『新書で名著をモノにする「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」』（光文社新書・2011年）（私物）
- ◎廣松渉・加藤尚武編訳『ヘーゲル・セレクション』（平凡社ライブラリー・2017年）（私物）
- ◎西鋭夫著『國破れてマッカーサー』（中公文庫・2005年）（私物）
- ◎文藝別冊『KAWADE 夢ムック・立川談志』（河出書房新社・2013年）（私物）
- ◎植田康夫著『編集者になるには』（ぺりかん社・1994年）（篠高図書館廃棄本）
- ◎立川談志著『努力とは馬鹿に恵えた夢である』（新潮社・2014年）（私物）
- ◎ビートたけし著『バカ論』（新潮新書・2017年）（私物）

◇まとめ・つぶやきなど

- 1月例会でいろいろと立体的に学ぶことができた。サークルの意義を感じる。ありが

たい。〔1月29日（月）15:40〕

○折り込み週刊誌「週刊うえだ」抽選で当たって、28日（日）14:00 丸子の新春寄席へ。

①前座瀧川どっと鯉「新聞記事」、②瀧川鯉津「動物園」、③瀧川鯉昇（りしょう）「時そば（蕎麦処〈ベーターベン〉）」、④入船亭扇遊「天狗裁き」、落語二時間堪能。抽選会で商品「クッキー詰め合わせ」等当たり。これまでの人生で二重に当たったのは、初めて。案外、気がつかないだけかもしれない。応募ハガキを書き、当たった券を持って会場に足を運んだから実現したこと。動くことが大切であることを実感。「ご褒美」で「学習」を「強化」できたのかも…。

○矛盾が限度を超えたとき、事故が起きる。…のかも知れない。一つの仮説。法律やルールは矛盾を広げないための手だて。（日本国）憲法もこの例に含まれるはず。

○狂歌一首…転んでも「シメタ」と言えるしたたかさ学び身につけリスクを減らせ（減らせリスクを）

○手塚治虫漫画「火の鳥」は、ブルックナーの交響曲群に似ている。作曲と何回にもわたる改訂が入り組んで渾然一体となって進行した人生の軌跡。

○理解の深さについて。知っている→分かる→できる→よくできる→いつでもよくできる→とっさにできる。化学などを教える立場にいる私は、いま上記の段階のどこにいるのかを意識してみることが大切。

○ガリ本図書館が1990年ごろに発行していたガリ本、『授業記録は生きてる私』というのは、じつは「授業記録は生きてる証」という隠された意味があったのではないか。「生きてる証」と言ってしまうと、「オレは授業記録を書いていない。それでは、オレは生きていないということか！」と怒鳴り込む人がいるかもしれないから…かな？〔以上、1月29日（月）15:50〕

○重複しているかもしれないが、念のためメモ。「運動あるところに矛盾あり、矛盾あるところに運動あり」という見方は意味があるのではないか。

○名和さん、犬塚さん、板倉さん、多久和さん、柳沢の五角形でコミュニケーションが取れていないところを結ぶ必要がある。名和さんにコンタクトをとって見る必要がある。

○面白いか。役に立つか。生徒に迷惑をかけないか。学校に迷惑をかけないか。サークルメンバー・研究会員に迷惑をかけないか。という判断の基準。〔以上、1月29日（月）

16:23〕

○あいさつは共に生きていることを確認し合う儀式。

○自由電子があれば電気を良く通すということ（真理）は単純なことだが、これを分らせることは簡単なことではない。

○安全第一は単純だが、実現は簡単ではない。

○人間の生は死に向かって直線的に進むが、このことに気づくことは簡単ではない。

○真理は単純、でも、理解は簡単ではない。そこで仮説実験的認識の出番である。

○忌野清志郎のデビュー曲「宝くじは買わない」の意味がわかった。それは、「命」だ。宝くじの最高金額が当たるよりも、もっと、ずっと素晴らしいことが、いま、ここで起きているじゃないか！ということを知野清志郎は伝えたかったのだ。そして、これは落語の「文七元結」「百年目」「妾馬（めかうま）＝八五郎出世」、中島みゆきの名曲「糸」に共通する「人間の理想の生き方を洞察するための大きなテーマ」なのだ。

○上の話の「別バージョン」。忌野清志郎の「宝くじは買わない」の意味が今日、初めて分かった。文字通りに行動することにはあまり意味はない。買ったかったら、買ってもいいんだ。そうじゃくて、宝くじが（今なら）10億円当たるよりも、もっと素晴らしいことが、今ここで、起きているじゃないか。気づけよ！ということなんだよ！

○「転んでもシメタ」学を展開するためのキャッチコピー「募集中ヒヤリハットの五七五」。「転んでもシメタ」というのは開高健さん作「編集者マグナカルタ」にある「トラブルを歓迎せよ」とほぼ同じだ。いや、全く同じだと言っていい。

○「成功を成功と認識できれば成功」＝成功は成功のもと。成功要因を正確に分析できれば成功の方法が分かるということ。

「成功を失敗と認識できれば、それも成功」＝成功は失敗のもと。成功の中にある失敗要因を正確に分析できれば次の失敗は防げるということ。

「失敗を成功と認識できれば、それも成功」＝失敗は成功のもと。失敗の中にある成功要因を正確に分析できれば成功できるということ。

「失敗を失敗と認識できれば成功」＝失敗は成功のもと。失敗要因を正確に分析ができれば成功の方法が分かるということ。

以上四通りの筋道が本当に良くわかれば、全部成功なのだ。

○運を俯瞰できればヴィルトゥの流れに乗れるので成功だと言える。要は生命力。

○失敗も成功もグッと遠くから全体像を見渡すように突き放して客観化できれば成功。

○「離見の見」は成功のカギ。

○「離見の見」について。眼は何のために我々の体についているか。①見えるところを

見るため（目的意識的に見ている状態）。②見えないところを見るため（見ることによって見えないところを想像することができる＝想像力）。以上が積極的な眼の意義。つづいて次の二つは、注意すべき要素。③見えるところを見えなくするため（これが、「見れども見えず」であろうか。問いかけなければ認識できない。問いかけなければ、見ていないのと同じ）。呼吸することを意識していない状態は、これに似ているかもしれない。呼吸は、人間の生命活動の基礎。④見えないところを見えなくするため（暗闇に眼を凝らしても、無意味。人生は長くないと思えば長くない。無意味なことはしないに限る『徒然草』）。

○たとえば台風が来たりして、大きな河川が氾濫する危険が迫ったとき、近くに田んぼや畑があるファーマーはどう行動すべきか。夜通し起きていて、心配し通すのは無意味。田畑の様子を見に行くなど、もってのほか。まず、身の安全を確保して、よく食べ、ぐっすり眠るのがいちばん良い対応。自分の力でどうにもならないことを心配してもしようがない。危機になればなるほど、これから先のことを冷静に判断し、行動するため、まず心身が健全に働く状態を維持することが大切。ナイチンゲールの「夜通し看病しても、病気が治るわけではない。看護には知識と合理的な行動が大切」や出口治明氏の本に書いてあることに共通するものが大切なのではないか。これも、「転んでもシメタ学」の領域に含まれるのではないか。必要なのは予測と制御。

○大臣や政府首脳が政治の重要場面でボタンドウンシャツ、クレリックシャツ、タッセルスリッポンを着て、履いて、まともな国政運営ができるのか。できているつもりなのか。服装において日本人は「脱亜入欧（米?）」すらも、完全に実行せずに「中途半端」なままである。他人事では済まされない心性の問題。小室直樹氏がかつて指摘して、本にもしたためた根本的な問題。戸田忠雄氏の『戸田忠雄評論集』（ふたつやなぎ書房ガリ本・1993年刊・絶版）にも、同じ問題意識で書かれた、極めてすぐれた論考が収録されている。

〔以上、昨日トレーニング・ジムで「降ってきた」アイデアをもとに2月5日（月）16:55 転記〕

○「噺家が、その時、その場で、噺が初めて生まれているように古典落語を話す」こと、おかあさんが枕元で子どもに「その子が主人公になった昔話を聞かせる」こと、「達人料理人が、旬の素材で、たとえばすぐれた会席料理をつくってみせる」こと、「田舎のおばあちゃんが畑で取れたものを使って家族のためにつくる家庭料理をつくってみせる」こ

と、「名演奏家がクラシックの名曲を、その場で初めて生まれているかの如くに演奏する」こと、「よい授業が実現する」こと、「よい講演が実現する」こと、…これらは、みんな同じことなのだ。ヴィルトゥ（生命力）の流れを最大限に生かせば、素晴らしいことが実現できるのだ。

○物理学，板倉式発想法，板倉式矛盾論がいつでも，とっさに使えるほどに身につけている人はとても少ない。上田仮説サークルには世界に誇るべき渡辺規夫さんがいる。

○ことが起こる前に適切な準備があれば，成功する。「翼があれば離陸ができる」。ことが起きても準備がなければ，成功はない。「翼なくして離陸なし」。離陸しても安定して飛行できなければ，墜落する。「成功は失敗のもと」。離陸したら，目的地に着陸できねばならない。着陸には準備（点検）が必要。着陸できる場所が必要。離陸の前にできれば着陸地点をあらかじめ，決めておいた方がよい。決まっていない場合は，離陸地点に戻るべし。自衛隊ヘリ墜落事故（佐賀）の報を聞いて。〔以上，2月6日（火）早朝，出勤直後に入力〕

○信毎柳壇に投句。「〔七番〕はやめると聞いてほっとする」「御神渡りの便りを聞いて熟睡す」「掬頼み相撲協会土俵際」。はがきに書いて投函。〔2月6日（火）10:00〕

○今，生きているということは，そのまま命懸けだということに気づいた。通勤電車に乗るのも，学校の廊下を歩くのも，一日の仕事を終えて床に就くのも，みんなみんな極論すれば「命懸け」なのだ。〔2月6日（火）10:34〕

○単純←→複雑，容易←→困難。受験勉強は分解すれば単純。組み合わせれば複雑。受験勉強を細分化すれば容易に実行できる。複雑なまま実行しようと思うから困難になる。単純と容易は全く違う。これと同様に，複雑と困難も全く違う。受験勉強に限らず，仕事を情報通信の基本単位「パケット」の発想で仕事をこなせば良いんじゃないかな。授業時間の1時限（篠高では55分）（1年間通せば1単位時間に相当）に持ち込める「パケット」は3個程度じゃないかな。テレビの基本単位が最長でも15分になっていることから，何か合理性があるのではないかな。

○「結い」の教育論構想。「人と人が出会うことがすべての始まり」＝「逢うべき人に出逢えることを人は仕合わせと呼びます」（中島みゆき「糸」より）。手許にある『新明解国語辞典・第五版』（三省堂・1999年）では「しあわせ」の項①仕合わせ②幸せ，となっている。知らなかった。

○アリストテレス，孔子，立川談志に共通するのは「一門」で学ぶ組織があったこと。

だとすれば、立川談志の名跡（みょうせき）は誰にも継がせないのが妥当。談志が真に偉大であると思うなら、一門の誰もがそう思い、それを実行するはずだ。〔以上 2月6日（火）10:57, もうじき校長面談〕

○無理のない範囲で高い理想を持つことはよいことだ。たとえば、上田仮説サークルで掲げられている「**コペンハーゲン精神**」は秀逸なキャッチコピーだ。**ノーベル賞科学者級を目指す「志」で自分のやっていることの意義を考える視点を持つ**ことが大切だ。私を強く励ましてくれる人は複数いるかもしれないが、いつも一緒にいて、見ていてくれるのは自分の意識だけだから。〔2月6日（火）12:45〕

○生徒たちにビジネス書（「自己啓発本」も含む）の図解本（抜き刷り）を読んでもらう。ねらいは、**自分の勉強（や「生き方」）を、より高いところから俯瞰する視点を身につけ、将来役立ててもらう**ため。〔2月6日（火）13:04〕

○「泥棒はしない」と心に決めれば、泥棒することは防げる…とっていた。だが、よく考えてみると、意識的にせよ、無意識にせよ「時間泥棒」は、自分自身も含めて誰がどのくらいやっているのか、良くわからない。だから、少なくとも自分は「時間泥棒はしない」と心に決めることにする。だが、「時間泥棒」の基準が良くわからない。とにかく、充実した時間を過ごすように、いかなる時でも、最大限に努力して行動するしかない。こういう生き方は「疲れる」だろうか。そうかもしれないし、そうでないかもしれない。疲れたら、そのときに考え直してみよう。〔2月7日（水）10:20〕

●研究の合間、昼休みに板倉聖宣さん（先生）の訃報をネットで知る。午前中を顧みて悔いの残らない仕事ができていることにホッとする。瞑目。〔2月7日（水）12:30〕

○授業中にメモしたこと。人間はたとえば、センター試験のように「機械に合わせる」という非人間的な営みで将来を決める。してみると、非人間的なものに合わせるという行為は、人間的な営みそのものであると言える。人間という、矛盾を抱えて運動して生きている存在の不可思議さ…。〔2月8日（木）10:10〕

○「富士山麓鸚鵡鳴く」の影響を受けてオウム真理教が富士山麓にサティアンを建てた。いまは、「富士山麓オウム無く」だ。同じ語呂でも時代が変われば、解釈も変わる。あの「上九一色村」＝「カミクイッシンキムラ」はいま、どうなっているのだろうか。

○速読するか熟読するかは読者に与えられた時間と、読者がすべき仕事の期限によって必然的に、起こるべくして、決まるものである。「演奏のテンポが楽譜（作曲家）の指定と指揮者の解釈および演奏会場の音響によって決まる」こと（チェリビダッケの言葉）

に似ている。

○研究の全体像の中におけるその本の役割というものがある。読者の目的意識によって、本の役割は異なる。すべての読者は研究者である。

○「わらしべ長者」の生き方は素晴らしい。はじめから見返りを期待してはいけないのだが、人のためになることをすると、結果的に自分にちゃんと返ってくる。「ももたろう」のストーリー展開は素晴らしい。大団円の前には試練が必要だ。野口悠紀雄氏だったと思うが、スタンダールの小説『赤と黒』のストーリーで大切なことは、困難によって揺さぶられたときに起こる「恋愛の結晶化」だと言っていた。意味を噛みしめる価値がありそうだ。「結晶化」は大事だ。

○「一球で始まるドラマ場合分け」と同様に、「遅刻したときの対処を表にする」を試みることは、面白そうだ。遅刻したときにいちばん良い対処法は、教師にいろいろ言われたり、迷惑顔をされたりする前に、静けさを尊重しながら、「すみません。〇〇のために、遅れました。以後気をつけます」と言い切ってしまうことだと思う。もちろん、教室という場の雰囲気も大切に…。

○「川柳を吐く」の読み方、「はく」だと思っていたが、もしかしたら違うかもしれない。「嘘を吐く」＝「うそをつく」と読むのだから、川柳も「はく」ではなく、「つく」かもしれないし、その方が美的な感覚が刺激される。「はく」じゃあまりにも、川柳が可哀相な気がしてきた。それはともかく、次の句を作った。「吾等皆人世大河の一滴」（われらみなひとよたいがのひとしづく）。この場合「一滴」は「ひとしづく」と読むが、他の世も方もある。「一滴」と書いて「ひとたらし」＝（人たらし）と読むことは、昨年11月に新宿伊勢丹8Fで島地勝彦さんから教えてもらった。

○父が亡くなったときは、葬儀のことで頭がいっぱいになったまま、事が過ぎた。ところが、戸田忠雄先生が亡くなったときと板倉聖宣先生が亡くなったときには、「何でこんなにいろいろなことが考えられるんだろう？」と困ってしまうくらいに、いろいろなことが考えられるようになっていく。なぜだろう？…潜在意識が活発に活動しているようだ。とても明るくて強い光の流れが変わって、自分の中をもの凄いスピードで通り抜けていくイメージだ。「ヴィルトゥ」の流れが私の中を通り抜けていくと考えてもいいのだろうか…。不可思議だ。〔以上、2月8日（木）16:08〕

○2月9日（金）12:40～14:40、上田市農政課の長谷川正之氏を迎えて2年6組（特進理系クラス）で化学の授業時間を使った講演会。演題は「君たちはどう大学受験に立ち

向かうか」。最後のまとめの時に長谷川氏が語った言葉をメモした。素晴らしい収穫だったと思う。生徒たちの心に何か大切なことが残ってくれば幸い。

成長とは「人生の解釈を変えつづけること」。そうすると過去は変えられる。未来はまだ起きていないから、選択はできるが変えられない。(長谷川氏のオリジナル)

「過去は変えられない、未来は変えられる」というのが常識的だが、長谷川氏は「逆転の発想」で真理（ないしは「理想」）に迫っていると思う。

○新しい働き方の例。

毎日同じ高校に努めるというやり方からの解放または変革。

曜日によって通う高校が異なる。時間帯も異なる。

理科の研究室や教員専用の机はない。あっても、共用（シェア）するという考え方。

信学会の予備校ではこういう形が珍しくないと聞いている。

定住型から移住型または狩猟型への変化。〔2月15日（木）15:30〕

○人生は「片道切符」。ただし、行先は自由に変えられる。

○「いつも書くものを持っていなさい」と「筆耕」の関連。

○作曲，建築，作文，描画，料理…みんな同じ。イメージと具体的な形を行き来することに意義がある。聴覚，視覚，味覚，触覚，嗅覚。

○こういう場所ができればいいなあというイメージ→設計図→建築物→具体的にイメージ通りに使うという形で夢は現実のものとなる。

○いつか崩出浩さんに長野に来てもらって、生徒たちに生きる喜びが実感できる時間を与えたい。それにはまず、私が青森まで足を運ぶこと。

○明日 16日（金）は茂木健一郎氏ほかの講師の講演を聴きに塩尻の教育センターへ行く。しっかりメモをとってこようと思っている。19日（月）は日本化学会東海支部の化学実験伝達講習でセンターへ。週末を挟んで連日の出張とは、我ながら、めずらしい。教員生活で初めてだと思う。

○「六曜」（大安，友引，仏滅など）を利用する日本人のしたたかな「超合理主義」と神仏を「自己客観化」や「自己暗示」のために利用する精神には共通のものがあるのではないか。また、「迷信を信ずること」と「基礎知識のない道德心（例：米国の反知性主義）」には深く重い「共通点」があるのではないか〔以上，2月15日（木）15:48〕

◆「予定時刻となったので」「本稿はこれで打ち留め印刷へ」。「最後までお読み下さりありがとうございます」，「この春は〈人事異動〉がありそうだ」。〔2月15日（木）16:03 脱稿〕